

# Yes, We Can

小規模事業者持続化補助金

## 事業の未来に “ひろがり”を！



株式会社 広 狩  
代表取締役 広狩 勝也

「私たちは大手と違って小回りができます。大手が取組まない小規模の太陽光パネルのメンテナンスを行うことでエネルギーの安心安全な供給に貢献し、地域の発展に繋がりたい。」そう語ってくれるのは、株式会社広狩の代表取締役、広狩勝也さんです。

株式会社広狩は昭和23年に材木商として創業し、現在は材木の販売から住宅の設計施工、リフォームまで住宅のことなら全て自社で行っております。また、近年のエネルギーの多様化に伴い、太陽光パネルの設置施工も行っております。3年前からは太陽光パネルのメンテナンスも自社で行うようになりました。

今回、小規模事業者持続化補助金を活用し新たな取組みを行っているのは、この太陽光パネルのメンテナンス事業です。

「ドローンを使うことで、今まで人の手で直接点検していた太陽光パネルの異常を効率的に発見することができます。屋上や傾斜地、最近では池の上にも浮かべるタイプの太陽光パネルも増えてきましたが、そういった人が入って行きにくい場所での点検もこのドローンを使って効率的に、



また安全に行うことができます。

ドローンには2つのカメラが付いていて、1つは一般的な可視光のカメラと、もう1つは撮影した物の温度がわかるサーモカメラです。この2つのカメラを使うことで太陽光パネルの異常箇所を特定することができます。」

広狩勝也さんは持続化補助金の採択を2回目のチャレンジで得ることができました。1回目の悔しさをバネに商工会事務局と連携し、まずは経営革新の認定を得、その後再度挑戦し持続化補助金の採択を得ました。「ドローンを使った点検」という先進的な取組みを行うことで、業界内での注目も集まり、今まで無かった大手との取引にも発展してきました。

しかし、まだまだ太陽光パネルにメンテナンスが必要であることを認識しているオーナーが非常に少ないとも同氏は語ります。

「啓蒙活動も私たちの仕事です。そうして、新たな市場の開拓に繋がっていききたい。そして何より太陽光パネルを末永く使ってもらいたい。今はこのドローンを使った別の事業も考えています。」新たな事業への「ひろがり」がこれからも楽しみです。

(戸田 敦大)